

地域と共に歩む

富山商工会議所議員
インタビュ⑥



富山が誇る堅実なものづくり 品質プラス心に響くような価値を

富山商工会議所 常議員

株式会社トンポ飲料

代表取締役社長

翠田 章男

(みすた あきお)

1896（明治29）年にラムネの製造販売からスタートし、時代と市場のニーズに応じてさまざまな飲料や食品を提供し続けている株式会社トンポ飲料。シャンメリーは販売シェア日本一を誇ります。創業128年を迎えた現在は、パウチ製品を主軸として「健康・美容」、「福祉」、「心のうるおい」という3つのケアをテーマに飲料やゼリーなどを展開。環境対策やSDGsにも取り組んでいます。経営理念の「難度の高い仕事に挑戦する」姿勢で、社会に役立つ製品づくりに注力する同社代表取締役社長、翠田章男さんにお話を伺いました。

社長就任時はどうでしたか？

「1998（平成10）年に5代目社長を継いだとき、当時主力だったガラス瓶飲料が減少の一途をたどり、世の中は少子・高齢化、女性の社会進出が加速して、子どもさん向け中心の商品構成では、近い将来事業が先細るのは目に見えていました。高齢者向けのゼリーや飲料の展開を見据えて、物流や容器にコストのかからない方法を探っていたところに、口栓付きパウチの話が舞い込みました。参入を決めてゼリー化の特殊技術を確立。現在は健康、美容、スポーツ向けを中心に、パウチ

は売上の8割を支える主力に成長しました。考えに考えていたからチャンスが訪れたときに逃さずにつかめたのかなと思います」

今後、富山のために何がしたいですか？

「富山の堅実なものづくりは高く評価されていますが、モノがあふれ、安いモノを作れば売れるという時代ではなくなりつつあります。この先は優れた技術や品質に加えて、感動や満足を生むような価値や独自のサービスを付加していくことが必要になるでしょう。ブランドینگやデザイン経営など、従来にとられない視点や考え方が付加価値を高めるポイントといえます。ものづくりに携わる企業として、将来を担う若い人たちが交流し、共に考え発信していけるような機会を創出するなどして、ものづくり産業を後押ししていきたいと考えています」

会員の方々へメッセージをお願いします。

「異業種との交流から学びやヒントを得て、新たなアイデアや価値が生まれることは少なくありません。さまざまな業種が集まる商工会議所でビジネスの繋がりや仲間をつくり、経済人としての資質を高める機会としてもらえたらと思います。経営者として揺れ動いたり、落ち込んだりすることもありますが、その時に自分を誰かと比較すると自己嫌悪に陥ります。私が実

践していることですが、他人ではなく、自分になりたい姿と比べるのです。そのためには、自分になりたい姿を明確にして紙などに書いてみるのもいいでしょう。時々見直ししながら、そこに向かって自分を認識できれば、精神的に楽になると思いますよ」



▲社員の発案で今年8月、社員の子どもたちを招いて工場見学会を開催。家族が働く会社をもっと知ってもらおうという初の試みで、普段見ることができない工程や設備も公開。子どもたちも興味津々だったそう。（最前で挨拶をしている翠田社長）

取材を終えて

「自らの主（あるじ）となる」という言葉を胸に、主体的に考え行動することを実践している翠田社長。趣味の読書や映画はジャンルにこだわらないそう。新しい視点や思考との出合いを楽しんでいます。社内では提案制度を設けて、社員が自ら問題を解決し、新しいアイデアを実現していく姿を見守っています。

Drink for Entertainment
トンポ 飲料

創業 1896（明治29）年5月
富山市下赤江町1丁目6番34号

